

「はたらっく」今年度の取り組み

「はたらっく・ざま」今年度の取り組み

お楽しみセミナー企画を拡充します!

「はたらっく・ざま」は、さまざまな理由で就労経験がない、就労しても長続きしない、病気がある、障がいの疑いがあるなど、困難を抱えている方たちを対象に就労準備におけた支援をしてきました。

昨年から、被保護者を対象に事業が拡大されましたが、年齢に関係なく共通しているのは、単身者である、メンタルが不安定、生活習慣病がある、そして知り合い、友人も少なく孤独、孤立している傾向があることです。人との関係の取り方も不慣れなために緊張が強く、加えて会話が苦手な方も多いため、「はたらっく・ざま」に通いながらスタッフに慣れることからスタートしますが、基本プログラムだけでは通う回数も限られることもあって、今年は誰でも参加できる「お楽しみセミナー」の企画を拡充しました。年間7回、午後の2時間を、ほっとして気持ちよく過ごしていただくのが目的です。この企画は大人になると忘れがちな季節行事が中心です。季節をじっくりと味わう贅沢な時間を過ごします。内容は下記の通りです。

5月	カフェ・はたらっく	フリーにお茶しながらゲームで遊びます
7月	七夕	絵本セラピストによる七夕にまつわる本の紹介、七夕かざり
9月	お月見	絵本セラピストによるお月見にまつわる本の紹介 お抹茶でお点前
10月	ハロウィン	カフェ・はたらっく で 仮装を楽しみます!
12月	クリスマス会	みんなで楽しいクリスマス! 1年のふりかえりと修了式
2月	節分	豆まき、恵方巻づくり
3月	ひな祭り	絵本セラピストによるひな祭りにまつわる本の紹介 お抹茶でお点前

5月25日、第1回お楽しみセミナー「カフェ・はたらっく」を実施しました。参加者は9人でした。緊張気味な方たちには、席で一息。好きなドリンクとスタッフお手製のクッキーを食べながら、自己紹介をしました。大勢の人たちを前にしてとまどう方もいましたが堂々としていてあっぱれでした。スタッフから今年のセミナー企画の紹介、そしてビンゴゲームで盛り上がりました。

7月は、初めての企画で絵本セラピストによるお楽しみセミナーです。乞うご期待!

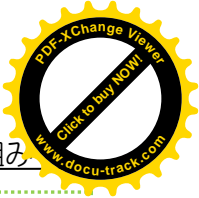
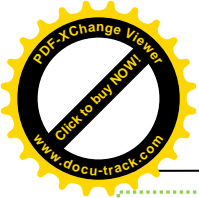
おかだゆり子

「はたらっく・ゆがわら」今年度の取り組み

「はたらっく・ゆがわら」では、今年度も引き続き小田原保健福祉事務所より受託している3事業を行います。

就労準備支援事業ではメンタルなどの課題が重く、実習にすすむ利用者も限られていますが、引き続き単発実習を充実させて、外に出る機会を提供することで社会的自立をめざす支援に力をいれていきます。コロナの5類移行に伴い、居場所サロンでは一緒に食事をできる場面をふやしなが、参加人数も増やしていきたいと考えています。

住宅生活移行支援事業では、今現在、乳幼児をもつシングルマザーの引っ越し支援を行っていますが、ここでは様々な年代、課題の方々の利用がみこまれます。引っ越しが終わっても、地域にスムーズに溶け



込むのは難しい方が多いので定着サロンを隔月開催して少なくともはたらっく・ゆがわらとのつながりが途切れないように見守りを続けます。

子どもの学習支援・居場所づくり事業では4月から出席者の人数がふえて毎回8名程度が利用しています。大学生スタッフが参加できないことが多く、地域の大人のボランティアスタッフを増やして対応していますが、大学生スタッフが来ると場面が明るくなり、子どもたちもとても喜ぶので、引き続き大学生スタッフを募集しています。

事業を行ってきて、地域での課題もみえたことから、スタッフができることを考え、自主の取り組みもふえています。具体的には、生活クラブの居場所をテーマとしたアソシエーション支援基金を受けた、スタッフが中心となっている「ゆがわら学習支援の会」の活動があります。地域の子どもの居場所として、マジック染め体験と、ゲーム大会を企画しています。また地域の困窮者である外国ルーツの家庭の小学生の勉強を週1回見ることになりました。この子どもは姉が中学生で学習支援事業の利用者です。ご両親は下の子の読み書きが心配なので、一緒にみてほしいという希望でしたが、事業の対象年齢でないために、自主としてスタッフが読み書きをみています。お母さんもメンタルの課題があり、困りごとを相談する場所もないので、一緒に来ています。

柏木 晶子

「はたらっく・ひらつか」今年度の取り組み

2023年3月で2年を迎え、この間の取り組みから平塚市の特徴や支援の課題が見え始めてきました。実は去年は1月から12月まで生活困窮者の新規登録は皆無でした。その対策として昨年末より「はたらっく・ひらつか説明・見学会」を定期開催しています。この開催に向けた平塚市生活困窮者支援担当部署との数か月に及ぶ対策討議から、行政との信頼関係が生まれました。また広報誌「広報ひらつか」企画欄への掲載で、市民への周知が広がりました。これらを要因に今年度の1月より問い合わせや登録が増え続けている状況です。新年度がスタートした4月にも3名の新規登録があり、現在の登録利用者は33名です。

今後も利用が増えることが予測される中、2023年度の支援の考え方は、多様なニーズへの対応に尽きます。利用者が働くための準備に向けた支援の最終的な目標は、それぞれの利用者にとって家・働く場・地域が“安心できる自分の居場所”となることです。地域全体の課題として、大勢の地域市民の理解や協力こそが重要になってきます。

基幹プログラムをもとに、個別支援も含めたオーダーメイド型の内容で就労準備支援をより丁寧に進めます。利用者に合わせて多様な工夫を講じます。一方、利用者の個性・特性や希望に合った新たな事業所開拓を行います。製造業（工場）や農業など平塚市ならではの産業や事業にも着眼します。それらを去年の成果を生かし、行政の関連部署と連携してともに事業所を訪ねたり、市民団体や生活クラブ運動グループへの協力をさらに広げるなど、積極的に“地域”へ出ていきます。湘南生活クラブ生協組合員からも様々な情報を提供してもらいます。これは就労準備支援事業を通して地域のネットワークをひろげ、「まちづくり」を進めていくということだと考えます。

利用者はひとり一人が異なった悩みや問題を抱えていますし、支援に専門的な知識が要される困難なケースも出てきています。「はたらっく・ひらつか」スタッフは平塚市の事業として会議での議論や研修で、柔軟な発想や支援力をより高め、また同時にまちづくり運動への理解を深めていけたらと思います。

君島 周子